

食物学会誌創刊50号を記念して

平成7年度食物学会会長

食品学科目・教授 近藤 陽太郎

「食物学会誌」のルーツを辿ってみますと、昭和29年6月に創刊された「家政」にあるようです。当時の家政学部食物学科、被服学科と児童学科の学生委員会が学生および卒業生の研究発表や研究資料を中心として、学生生活記録、各学会記事、卒業生との連絡、読書紹介、随筆などを内容とし、編集されていたようです。その後、家政学部三学科が独立してそれぞれの学会誌を持つこととなり、昭和32年2月に食物学科が編集する「食物学会誌」が発刊され、現在に至っております。

「家政学」には食物学はもとより、衛生学、医学、経済学、建築学も含まれれば、化学、生物学、物理学なども含まれていて、非常に学際的な学問分野です。ひとの健康をどのように維持し、管理するかといった問題を例にとっても、ひとの健康に害をなす食品添加物や農薬、ひとの健康保持によいとされる食品中の有用成分などの研究は、化学、農学、生化学、栄養学や医学などといった複数の学問領域にまたがっています。ですから科学や工学といった学問と異なり、新しい総合学問としてこれからの発展が期待されています。最近では、人々の関心が食糧問題や環境破壊問題に集まっています。こういった問題を解決しようとする場合、国際政治や国際経済、あるいは産業構造の問題など地球規模での計画や施策が必要になってきます。それ故、家政学は「ハウス・キーピング」や「ホーム・エコノミックス」と呼ばれた時代から、地球全体をうまく維持、管理していく「グローバル・ハウス・キーピング」と呼ばれる学問へと変化してきています。

食物学会誌50号の発刊にあたって、本会誌が本来の目的と使命を果たすとともに、家政学、とくに食物栄養学の分野で時代の要請にこたえ、新しい発展を遂げることを願っております。また、今回記念号を発刊するにあたり、教員、卒業生の方々からの特別寄稿をお願い致しました。今後も皆様方の御意見を参考にして、気持を新たに会員の総力をあげて本会の運営を行って参りたいと考えております。御協力をお願い致します。